

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：健康・スポーツ学科

資格：講師

氏名：満武 華代

研究分野	研究内容のキーワード
学校保健, 保健科教育	保健授業, 教員養成
学位	最終学歴
教育学修士	佐賀大学大学院教育学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 授業内容と教員採用試験の関連付け	2018年4月10日～現在	「学校保健」「保健の授業研究」において、授業内容の中で実際に教員採用試験で出題された問題（解答付き）を毎回の授業で提供している。授業プリントとは別にA4用紙1枚で配布し、授業後や隙間時間に学習できるようにしている。
2. 学校現場を想定した保健指導・安全指導の立案	2018年4月10日～現在	「学校保健」において、学習内容をもとに学校現場を想定した保健指導・安全指導の企画をグループごとに立案し、プレゼンテーションを行っている。学生自身でアイデアを出し合い、それらをまとめて発表することで、教師としての実践的な能力を育成する。
3. 授業外における教職課程のサポート	2018年4月～現在	教育実習前の、教材研究に関するアドバイス。 教員採用試験前の、願書の書き方、勉強方法のアドバイスや、面接指導。
4. 教員採用試験対策としての毎授業のミニレポート課題	2017年4月8日～現在	「学校保健」「保健の授業研究」において、授業終了時に授業内容に関わり且つ教員採用試験に出題されやすい内容について、100～150字程度のミニレポートを提出させ、次回授業の初めに模範解答と解説を行う。学習の定着、文章力の向上、教員採用試験対策を実現している。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 高校女子バスケットボール部の指導	2012年4月1日2013年3月31日	県立高校の女子バスケットボール部の顧問として、技術指導及び公式戦等の引率を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 健康運動指導士	2016年5月1日取得	(公財)健康・体力づくり事業財団
2. 高等学校教諭専修免許(保健体育)	2012年3月23日取得	佐賀県教育委員会
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 県立高等学校の保健体育科常勤講師	2012年4月2013年3月	県立高等学校の保健体育科常勤講師として勤務。保健体育科の授業担当や、2年生の副担任、生徒指導部も担当。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 高等学校保健体育における健康教育教材の開発—柔軟性を題材としたからだの教育—	単	2012年3月	平成23年度教育学研究科修士論文要約集	高等学校における年間を通した体育と保健を関連させた授業展開を行うために、「生涯を通じた」をテーマに効果的なからだの教育教材について検討した。柔軟性教材を用いることが体育と保健の橋渡しをする上で有効である可能性が示唆された。
3 学術論文				
1. 保健体育科教員養成段階における保健授業の省察力—所属コース及び教員志望度による比較—(査読付)	単	2019年9月	東海学校保健研究43	保健体育科教員養成段階の女子大学生を対象とし、保健体育科教員養成段階における学生の実態に合わせた効果的な授業方法を検討した。保健科教育を多く学ぶ教育コースの学生は、自身の授業を客観的に分析する力があり、授業構成力が高く、生徒の反応を見る余裕を持っていた。そのこと

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 授業の質的变化に関する基礎的考察—短期大学部における中学校保健体育科教育実習の授業をもとに—(査読付)	共	2017年3月31日	至学館大学教育紀要第19号	が成功体験を得やすくなり、保健科教育に対してポジティブな感情を抱いていた。他コースの学生は経験不足から、教授行為のみに注目し生徒への意識が向いていないことから、授業分析に関する学習機会を増やす必要がある。 保健体育科教育実習生の授業を観察し、それぞれの実践ごとに「学びの過程」をエピソード記述により質的な解釈を行い、実習生への効果的な指導を検討することを目的とした。 4つの実践を観察・分析した結果、知識定着型と生成型の2種類に分類できた。定着型授業は、学びから遠ざかる学習者が現れやすいことが分かった。生成型授業は、他者とのやりとりをきっかけに、学習者の学びに対する姿勢に変化がみられた。したがって、大学生の授業づくり(授業構成)の質的向上のためには、生成型の授業づくりのコンセプトを重点的に指導することが有効であることが分かった。 (上島久明、瀧武華代、大窪貴史)
3. 保健体育科教員志望学生の保健授業に対する自信及び保健イメージの変化について—教育実習及び教職実践演習前後の比較—(査読付)	共	2016年9月	東海学校保健研究 第40巻	保健体育科教員志望学生が教育実習や教職実践演習を通して、保健授業実践に対する自信及び保健のイメージがどのように変化したかを明らかにした。授業場面への自信では性別や教師志望度によって苦手な程度が異なることが分かった。保健イメージで「つまらない」と回答した群は授業に対する自信が低く、保健へのネガティブなイメージが授業実践への自信に影響している可能性が考えられる。 (共著者：瀧武華代、大窪貴史、上島久明)
4. 保健体育科教育実習前後の授業実践に対する自信及び教科イメージの変化について(査読付)	共	2016年7月	至学館大学研究紀要第50号	保健体育科教育実習生が実習前後に保健体育授業実践に対する自信及び教科イメージがどのように変化したかを明らかにした。 体育授業に対する自信では教育実習後に指導案作成の自信が向上した。保健授業に対する自信は実習前から低値であり、体育と比較しても有意に低かった。体育イメージでは実習後に「教授行動」に関するキーワードが出現していた。保健イメージでは実習前後で変化せず、保健は大切であると考えて一方でつまらないと感じていた。保健の楽しさ・面白さを知ってもらう機会を設ける必要がある。 (共著者：瀧武華代、大窪貴史、伊藤尋思、上島久明、松尾博章)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 保健体育科教員養成段階における保健授業に対する自己評価—教育実習前・教育実習後・教職実践演習後の比較—	共	2016年9月3日	第59回東海学校保健学会	教員養成段階の大学生が教育実習や教職実践演習を通して、保健授業を行う自信に変化がみられるか検証した。 その結果特に教育実習後に自信が向上し、教職実践演習後に大きな低下は無かった。また、男子では板書、女子では生徒との関わり方や知識に関する自信が低いことが分かった。以上のことをふまえた指導が必要である。 (発表者：瀧武華代、大窪貴史、上島久明)
2. 女子大学生の月経状況と月経意識—スポーツ系学生と栄養学系学生の比較—	共	2016年11月19日	第63回日本学校保健学会	大学生の月経状況・意識について、学科別に実態を調査した。月経周期に問題を抱える者が3割存在する一方で、日常的に基礎体温測定をしている者はほとんどおらず、自分自身の月経状況を把握しておくことの大切さを理解させる必要がある。また、スポーツ系の大学生は、試合のコンディションに影響を及ぼすため、基礎体温や低用量ピルなど月経を上手に管理するための知識を身に付けることが重要である。 (発表者：瀧武華代、大窪貴史、上島久明)
3. 保健体育教員を目指す大学生の「教師観」「教科イメージ」「教育関心」の学年比較による教職課程の課題—S大学の事例研究—	単	2014年11月16日	第61回日本学校保健学会	保健体育教員を目指す大学生が在学中にどのような意識の変化がみられるかを学年間の比較によって明らかにした。教師観において1,2年生では「友人のような親しみやすさ」が主で、4年生では「生徒理解」「教師間連携」等多岐であった。教育関心については全学年を通して「体罰」が最も多かった。教科イメージについて体育では4年生において指導者目録の内容がみられた。保健では学年間にほとんど差はみられなかった。また保健に対して、必要であるという認識はあるが苦手意識を感じていた。教職課程において保健に対する苦手意識をなくし、取り組みやすいと感じてもらう必要がある。
4. 柔軟性と健康関連行動との関係について	共	2011年11月13日	第58回日本学校保健学会	柔軟性と健康関連行動に焦点をあて、特に柔軟性と生活習慣、健康意識等との関係を明らかにすること

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
5. 自己認識と携帯電話に対する依存との関係性	共	2010年11月27日	第57回日本学校保健学会	<p>で、健康づくりとしての柔軟性教材の有効性を検討した。体の悩みや健康度は柔軟性と関連があった。また生活行動が柔軟性に影響していることが明らかとなった。柔軟性と健康との関連を示すことは、保健学習等の健康教育を効果的に行うことができると考えられる。 (発表者：満武華代, 栗原淳)</p> <p>携帯電話に対する依存と心の健康（自尊感情、自己意識、自己認識）との関係性について明らかにした。携帯電話への利用依存度が高い群ほど積極的に他者と関わりを持とうとし、自分に対してポジティブな考えを持っていることが明らかになった。また意識依存度が高い群ほど人間関係に対する不安を感じており、自分に対してネガティブな考えを持っていることが明らかになった。学校における健康教育の中で携帯電話への依存を防止するために、人間関係づくりのためのコミュニケーション方法を中心に考えさせるような指導が求められる。 (発表者：満武華代, 栗原淳)</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年5月～現在	近畿学校保健学会
2. 2015年6月～現在	東海学校保健学会
3. 2010年6月～現在	日本学校保健学会